

B-25 織物の方向性による色変化(4)斜文織の場合 (官能検査)

文化女大 家政 ○成瀬 信子 高橋 由美子
明治大 工 仁平 幸治

はじめに 朱子織物(アセテート)を用いて、織物を見る方向によって色がちがって見え、その変化状態と織物の方向とは色によって異なり、とくに白と黒とはそのちがいがはっきりとわかった。そこで今回は組織の異なる斜文織物(2/1 \nearrow)で、明度が比較的高いや、透けるキュプラ100%の裏地を用いて、織物の方向と色の視覚的变化が、織物の種類や色によって、どのように変化して行くのかを調べる一試料の結果を得るために行なった。他方、変角光度計により、試料方向に対する投射光の方向を変えたときの反射光分布曲線を求め、その変化状態と、官能検査結果とを対応して検討した。

方法 Schefféの対比較法別法—順序効果のない場合で、女子大生により、13時より15時半までの自然光を投射角が小さい方向から受け、受光角は大きい位置から見て検査を行なった。官能量は色全体、色味、明るさ、あざやかさ、つや、布味のよさの6項目で、一巡三角形の数がほとんどない10名の被検者の結果をまとめた。

結果 先に行なった朱子織物よりは織物の見る方向による各官能量に対する分散比はやや小さいが、有意差が認められた。朱子織物のときはたて方向とよこ方向とが、比較的、官能量の最大・最小値を示し、各バイアス方向はその中間値を示す傾向であったが、斜文織物では、斜文方向に沿った右60°バイアス方向とたて方向が、官能量間の差を一番大きく示している。試料の色によるその変化傾向の差は、朱子織物より大きい傾向で、反射光分布曲線の方向性が朱子織物より大きい結果と対応された。